

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)	良くなる やや良くなる	－	－
		一般小売店〔鮮魚〕 (役員)	・春休みや観光シーズンに入り、観光客は増加する。
		一般小売店〔書籍〕 (従業員)	・新学期に向け、各メーカーの新製品発売も控えており、期待できる。
		百貨店（営業担当）	・3月以降、北陸新幹線開業1周年のイベントなどが各地の商業施設などで予定されており、観光客、地元客の集客につながると思われるので、景気が良くなると思われる。
		家電量販店（店長）	・新築需要で、4月や5月の話が多い。
		乗用車販売店（従業員）	・業界自体が繁忙期になるため、売上の伸びに期待している。
		住関連専門店（役員）	・消費低迷の動きは相変わらず継続しているが、その中でも必要なものをふるいにかけ、良いもの志向で価値を求める傾向にある。その全体ボリュームが増加しつつあるため、期待は持てる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ガソリン安、賃金上昇などで、一般消費が上向き期待は持てる。春物衣料の立ち上がりや新生活準備などの売上が今後の試金石になる。
		高級レストラン（スタッフ）	・昨年3月中旬に北陸新幹線が開業したので、3月以降は前年を越える集客は難しくなることが予測される。
		タクシー運転手	・これから春先にかけて、観光客も増えてくることから、良くなると思う。
		タクシー運転手	・3月になれば、また観光客が増加してくると思う。
		通信会社（営業担当）	・卒業シーズンと重なり、販売量の動きに期待したい。
		住宅販売会社（従業員）	・常設展示場の来場者数は底堅い動きを示している。情報量も126%増となり、今後の商談件数の増加に期待したい。
	住宅販売会社（従業員）	・来年4月に消費税増税が予定されているので、客の動きに活気が出ると思う。	
	変わらない	商店街（代表者）	・今後は良くなる材料もなく、特別に悪くなる材料もない。今後3か月間は、例年並みに推移すると思う。
		一般小売店〔精肉〕 (店長)	・今後、インバウンド客や観光客などが確実に増えていくことを楽観視はできず、不確定要素が多い。
		スーパー（店長）	・昨年は消費税増税後の落ち込みに対する持ち直しという状況があったが、今年は若干その反動が出てくると思う。今後もしほほど良くなるとは考えづらい状況である。
		スーパー（総務担当）	・パート、アルバイトの新規採用は、地区により厳しい状況が続いているものの、景気全体としては横ばい状況と思っている。
		スーパー（店舗管理）	・現状では良くなる要因もなく、値上げによる1品単価増の反動で、今後は客単価の低下が顕在化すると思われる。
		コンビニ（経営者）	・明るい材料は何もないが、冷凍食品など好調な商材もある。店内のレイアウト変更によって売上が増加することを祈っているが、現実としては難しい状況だと思われる。
コンビニ（経営者）		・季節柄や気象条件による売上上昇は見込めると思うが、前年比が良くなる要素は見当たらない状況である。	
コンビニ（店舗管理）		・パート、アルバイト賃金は大きく上昇しているが、企業側からすれば正規社員の賃金を抑えるだけである。世帯全体の収入増は難しい。マイナス金利政策も末端にまで届くのかは疑わしい。	
乗用車販売店（経営者）		・商談の量が早くから減ってきているので、良くはならないと思う。	
乗用車販売店（役員）		・特に新型車もないので、3月の決算月をまたいで、2～3月の遅れが次年度にも持ち越されて推移するような状況になると考えている。	
自動車備品販売店（役員）		・低価格志向は変わっておらず、明るい兆しも見えない状況であり、今後も変化はないと判断される。	
その他専門店〔酒〕 (経営者)		・ただ単に、これ以上悪くなってほしくないという思いから、変わらないという回答にした。	
その他小売〔ショッピングセンター〕		・入園入学スーツ、お祝いメニューといった春需要に大いに期待したいところである。新企画、イベントをいろいろ思案中である。	
都市型ホテル（スタッフ）		・宿泊や宴会の受注状況は、足元では前年並みに推移しているが、北海道新幹線開業の影響がみえない。レストランは低価格やお得感を出さないと来客数が伸びず、楽観は出来ない。	
旅行代理店（支店長）		・3か月先の様子はわからない。	

	通信会社（職員）	・ファストフードは高級志向で売上也回復、増加傾向と聞くが、新サービスへの客先動向は、予想以上に質より価格を求める傾向が強く、日常サービスはまだ節約傾向がみられる。
	通信会社（役員）	・契約獲得数は全体としては減少傾向にあるが、一方で一部商品に回復傾向もみられ、総じて当面は現状維持で推移するとみている。
	通信会社（営業担当）	・機種変更などの台数は増えてくるかもしれないが、値引きも多いため、売上増にはつながらないと思われる。
	通信会社（店舗統括）	・3月は業界的に繁忙期ではあるが、売上が大きく見込める要素は少ない。
	通信会社（役員）	・引き続き光サービス（F T T H）の販売が好調に続くともみている。
	その他レジャー施設（総支配人）	・雪のない状態で、春のセールへつなげられればと思うが、景気の良さが感じられず不安である。
	美容室（経営者）	・景気が良くなるような前向きなニュースがなく、このままの傾向が続く。
	住宅販売会社（従業員）	・例年イベント来場者が増える時期だが、今年はその雰囲気を感じられない。割安な物件への反応もあまり良くない。購入時の価格の値引き交渉も強く、なかなかスムーズに交渉がまとまらない。
	住宅販売会社（従業員）	・消費税率アップとマイナス金利政策によるローン金利低下の影響で客は動いているが、好不調の波が激しく受注量が安定しない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・数年を費やした駅広場の整備が3月に完成するが、電車の本数も減り車での利便性は悪くなり、人出が増えるどころか減少につながりそうだ。
	一般小売店〔事務用品〕（店員）	・商品の価格改定及び競争、個人消費の鈍化により、薄利の状態が続く。
	百貨店（売場主任）	・現在、日銀が追加緩和策「マイナス金利」を導入したが功を奏しておらず、さらに株安、円高が進み、実体経済は低迷している。しかし、反面で「友の会」の口数および件数については増やす客が多いという状況である。とはいえ「友の会」の満期は1年後であり、すぐに業績に直結するわけではない。
	百貨店（営業担当）	・しばらくは中国の問題であれアメリカの問題であれ、株価がまだ1～2か月は不透明な状態が続くと思われることから、春物のトレンドのファッションなどについては、客の購買はまだ慎重になり、買い控えをするという声は非常に多い。
	スーパー（総務担当）	・景気低迷の動きが出てきているため、消費者は出費を減らそうとするのでないかと思われる。
	コンビニ（店長）	・3～4月は季節的にも上向いてほしい時期だが、12～1月から現在の状況を見ると、上がる要因があまり見当たらない。10キロほど離れたところにある競合店の改装があるようで、距離が離れているためそこまで大きくはないが、少なからず影響があると考えている。
	衣料品専門店（経営者）	・衣料品の売上においては改善の兆しを感じられず、先行き真っ暗なように感じる。
	衣料品専門店（経営者）	・明るい材料はあるような気がするのだが、これだけ低調が続くことは今までにない。いつまで続くのか、大変不安である。不安のうちには良いのだが、不満につながるのではないだろうか。
	家電量販店（店長）	・季節要因もあるが、来客数が減少していて客単価で補うことが難しい。また、携帯電話のM N Pに対する施策も終了したこともあり、携帯電話の実績が大きく落ちている。
	一般レストラン（統括）	・人手不足は製造、販売の現場で深刻な状況である。材料があっても作れない、売れない状況が原因で、売上が上がらない現象がこれからますます増える。
	スナック（経営者）	・やはり、予想通り株などもろもろの外部要因が心理的に悪い影響を及ぼしているため、先々も落ち着いた状態と思われる。
	観光型旅館（経営者）	・北陸新幹線効果も薄れてきており、4月以降の集客が不安である。
	観光型旅館（スタッフ）	・前年は北陸新幹線開業以降の期間の先行予約が多数みられ、新規予約が取りにくい状況であったが、今年の予約保有は2月以降110%と、予約の仕入れは落ち着いた形になってきている。
	旅行代理店（所長）	・北陸新幹線開業1年を迎えるにあたり、特需的動きは団体、個人共に昨年と異なり低調である。

		テーマパーク（役員）	・先行きの国内団体旅行は、前年同期比で受注が弱くなっている。特に企業がらみの団体が鈍くなっているように感じる。また個人客も、ふるさと旅行券などの利用喚起の政策も一服することから、旅行需要がやや減少するのではないかと考えている。海外からの客も、円高の影響がやや出てくるのではないかと思う。これらのことから、やや悪い方向に動くのではないかと考えている。
	悪くなる	—	—
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる	—	—
	やや良くなる	食料品製造業（役員）	・春からの値上げの動き、新規投資による新商品の投入や生産性の向上が顕在化し、会社の業績は向上していくものと考えている。
		化学工業（総務担当） 不動産業（経営者）	・受注量が増加の予定である。 ・個人であれ法人であれ、数か月先に計画しているということで、物件関係の内容の問い合わせが来ている。
		税理士（所長）	・製造業についていえば、中国の問題がだいぶ落ち着いてきている。チャイナプラスアルファというか、今はインドネシアやタイ、北米関係の出荷量が徐々に回復している状態である。消費税増税が1年後に予定されており、住宅関係やリフォーム関係あるいは個人的な買物も、消費税増税によって前倒しされる影響が徐々に出てくるかと思う。逆に消費税増税を先延ばしにすると、かえってマイナスになる可能性も大きいかわれ、それが心配である。
変わらない		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の分の受注状況をみて、そのように回答した。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・利下げ、株価、為替の今後の動向に大きく左右されることから、実感として非常に不透明である。特にマイナス金利の影響として、企業の立場からするといくら金利が低くても設備投資などの実需がなければ借入はしないし、個人の立場からも住宅ローン金利が低くなっても、個人所得の増加傾向が期待できない限り、将来の返済見込みが立たず、借入はしないと考える。
		精密機械器具製造業（役員）	・今後数か月の生産計画は比較的安定した状況であるが、特に為替の不安定さもあり、楽観視はなかなかできない状態である。
		金融業（融資担当）	・春になり北陸新幹線1周年の行事も多く、ホテルの予約も好調である。現在の景気は何とか踏みとどまると思う。
		司法書士	・不動産登記において、投資型マンションの移転、設定登記が増えているが、景気上昇に結びつくかは疑問である。
		やや悪くなる	繊維工業（経営者）
		繊維工業（経営者）	・2017年の春夏用商材は今開発中であるし、2016年の秋冬については期待をしているところである。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・軸足を置く住宅市場は、新設住宅着工数において春以降順調に伸びてきていたが、10～12月は前年割れとなっており、さらに着工面積の減少は戸数以上に大きい。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・どの市場も今後の景気動向に明るさがみえず、設備投資意欲が伸びないと予測している。
		建設業（経営者）	・公共事業の切れ目のない発注が期待されているが、新年度の4月からすぐに実行されそうになく、建設業者は少ない手持ち工事で食いつないでいくことになるであろう。
		建設業（役員）	・地方では工事発注量の減少見込みから、一段と受注価格競争が激化すると思われ、今後受注環境がさらに厳しさを増すと見込まれる。
		輸送業（配車担当）	・燃料費のコスト削減も一巡した。現状は売上が落ち、物量も前年比約10%落ち込んでいる。
		金融業（融資担当）	・製造業の受注の先行き減少と小売業の北陸新幹線効果一巡から、前年比でみるマイナストrend入りとそれに伴うマイナス低下が懸念される。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・去年の2月の折込広告売上は15%近く下がったにも関わらず、今年2月もまた前年を下回った。特に自動車関連の折込広告の衰退が目立った。パチンコ業界に続き業種間の折込広告の衰退は手痛い。
		悪くなる	—
雇用 関連 (北陸)	良くなる	—	—
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人の数は、今年度後半から前年比で大きく落ちている。一昨年と比較した場合それに近い水準なので、全体のトレンドから見ると一時的に上がっていたものが例年レベルに落ち着いたといえ、大きな経済的トピックスがない限り、堅調に進むのではないかとと思われる。

	職業安定所（職員）	・有効求人倍率は、1月においても1.6倍と非常に高い数字で推移している。
変わらない	人材派遣会社（役員）	・紹介予定派遣の希望者は増えているが、レベルや職務などでマッチング率が悪い。
	人材派遣会社（社員）	・そろそろ更新確認時期なので、仕事量などを含めて、時給アップ交渉についての相談が、今後増えてきそうである。
	求人情報誌制作会社（編集者）	・大きな雇用を生む計画が出てこない。
	職業安定所（職員）	・業績が伸びている事業所がある一方で、円高の影響か輸出量が徐々に減少している業界もあり、先行きを不安視している事業所もある。
	民間職業紹介機関（経営者）	・転職希望の求職者はやや増えているが、全体として求職者が少ない状況が続いているようだ。
	学校〔大学〕（就職担当）	・直接求人依頼に来る人事担当者との情報交換をしても、人手不足で受注や設備投資に対応できない状況が続いていることがうかがえた。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・有効求人倍率についてはさほど変化は見られないと思われるが、製造業などの求人数が減少傾向にあり、実態の労働市場の中で求職者ニーズとのかい離が進むことが危惧される。
悪くなる	—	—